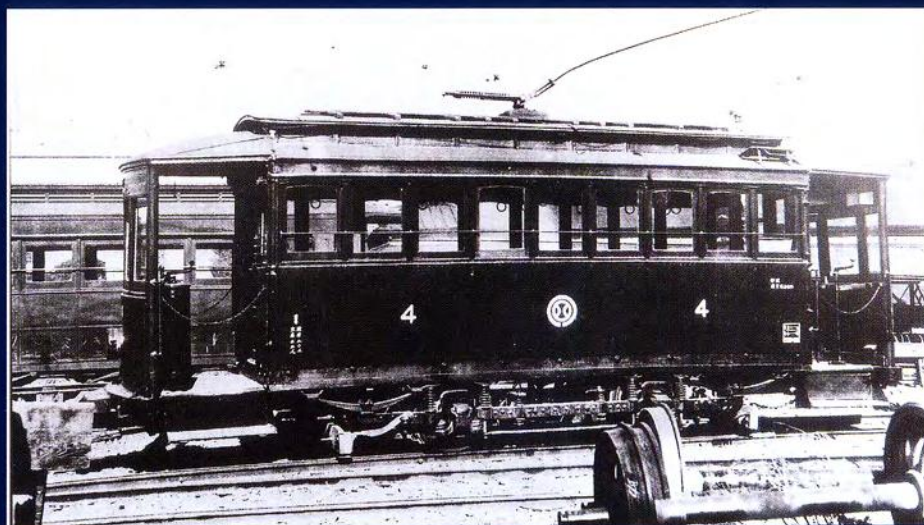
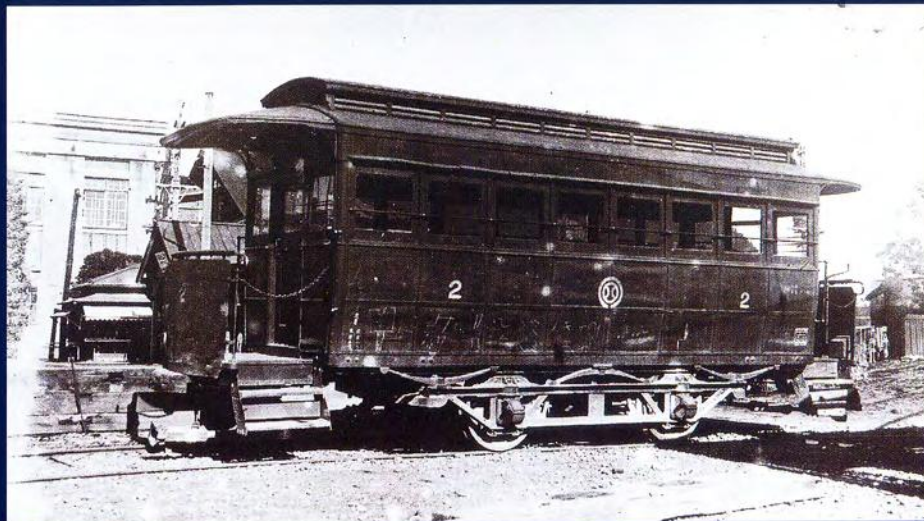




博物館だより



西武鉄道大宮線車両写真（川越市立博物館蔵）

昭和14年12月橋本哲治氏撮影

上：明治39年川越電気鉄道開業当時からの車両 下：昭和3年旧西武鉄道上石神井工場製車両

昨今世界では、環境問題・バリアフリーその他の面から路面電車が見直される動きがあります。

この路面電車が、かつて川越にも走っていました。'川越電車'と呼ばれ、明治39年～昭和15年まで川越の久保町駅（現在の三久保町、中央公民館付近）と大宮との間12.8kmをつないでいたのです。

写真は、その電車の待機中風景です。上下の写真で、電車本体の違いが見てとれるでしょうか。下の車両には、接触防止のための木製カバーが取り付けられています。

また、車両の上にはポールが付いています。シングルト

ロリーポールという集電装置で、これが架線をこするのですが、上の写真の方はたたんでいる状態なのでしょう。

写真では見にくいですが、そこからひもが下がっています。このひもを車掌がひいてポールを動かしました。現在のパンタグラフと異なり、終点でポールを後ろに回さなければなりませんでした。

ゲージは1372mmあり、現在のほとんどの鉄道のそれよりも広がったのですが、よく脱線して、乗務員のみならず乗客も一緒になって担いで軌道に戻したそうです。

現在より少しだけゆっくりした時間の流れが思われます。

子ども博物館教室

川越の歴史探検

～ピンホールカメラを作って文化財を写そう～

子ども博物館教室は、3回のシリーズで構成され、その第1回の内容が「川越の歴史探検」です。夏休みに入り、ミンミンゼミの鳴き声が響く頃、この教室がスタートします。この教室のねらいは、①川越の歴史や文化財に興味・関心を持ってもらうこと、②博物館の事業に主体的に参加しようとする意欲を育てること、③参加者の交流を深めることにあります。

従来の「川越の歴史探検」では、川越の文化財の話の聞いたり、川越の文化財を探検したり、そして持ってきたカメラで自分が文化財にしたいものを写し、博物館のギャラリーに展示したりといった活動を行ってきました。

平成11年度になり、この「川越の歴史探検」の内容を「より楽しく、感動のある活動を」という視点から見直してみようということになりました。係内の協議を経る中で、家から持ってきたカメラではなく、自分で作ったカメラで自分が選んだ文化財を撮るといことではどうだろうかということに考えが固まってきました。最終的には館長の助言もあり、より楽しく、感動のあるもののできるピンホールカメラ作りをやってみようという結論に達したのです。

進む方向は見えたものの、ここからがピンホールカメラ作りに向けての多難なドラマの始まりだったのです。

実は教育普及係では、具体的にどのようにしてピンホールカメラを作成するのかを知っている者がいなかったのです。図書館、インターネットなどで調べてみました。しかし、どうしても次の点が問題となるのです。

- ① どのように現像するのか。
- ② 年齢の違う多くの子どもたちがいっしょに作るためにはどうしたらいいか。

現像においては、多くの本では、印画紙を箱に取り付けています。しかし、これでは撮った後、箱ごと写真屋さんをお願いすることになり、時間がかかってしまいます。

また、小学校3年生から中学生までと年齢幅が違うので、どの子どもたちでも簡単に作る事ができるものでなくてはなりません。課題は山積みでした。そんな折、市内の写真家でもあり、写真屋さんを営業している高田司朗さんに御協力をいただけることとなったのです。これは幸運でした。さっそく高田さんを交えてピンホールカメラ作りの研究が始まりました。そして検討していく中で、ポラロイドフィルムを使えば、時間をかけずに現像することができそうなこと、夏の強い日差しの下では、厚紙や菓子箱で作ったものでは光が入りこんでしまうので、せんべい缶がいいということがわかってきました。しかも規格が同じであれば、多くの子どもたちが一斉に作る事が可能となります。



研究の末どうにか試作機を完成させ、平成11年度に初めて子ども博物館教室でピンホールカメラ作りを取り入れて開催する運びとなりました。

子どもたちは、レンズの無いカメラで撮った文化財の写真を見て、レンズが無くとも写真が撮れることにびっくりしていました。

そしてまた本年度も夏を迎え、昨年度と同じく高田さんの御協力をいただき、「ピンホールカメラを作って文化財を写そう」を8月の2、3、4日に開催しました。

子どもたちは、ファインダーが無いので、撮りたい文化財にカメラを向けて、何度も何度も調整しながら慎重に角度を決めていました。また、練習撮りした経験でおよそのシャッター時間を予想し、声を出して秒数をカウントしながら撮影していました。

ピンホールカメラは、通常のカメラと違って一つのフィルムで何枚も撮ることができません。ほんの1枚なのです。そのため「この文化財のここを撮りたい」と子どもたちのこだわりが出てきましたし、1枚1枚慎重に撮るようになりました。中には、動いているものは写らないというピンホールカメラの面白さを考えて、場所を選んで撮る子どももいました。

さて撮影が終わると、カメラを博物館の暗室に運んで現像をします。暗室では高田さんが現像の作業を行い、出来上がった写真を私たちがピンホールカメラの中に入れていきます。ポラロイドフィルムなのでとてもスピーディーに作業ができます。

そして子どもたちが待つ体験学習室に写真の入ったカメラを運び、子どもたち一人一人に手渡ししていきます。全員に渡ったところで一二の三のかけ声でふたを開けて、写真を取り出します。

「やったー」「すごくよく撮れている」と子どもたちから驚きの声があがりました。

ここに夏休みの思い出の一品が誕生しました。ピンホールカメラで撮った文化財写真…。子どもたちは大喜びでした。

「撮れていてよかった」と高田さん。高田さんは、今回は穴のあけ方について研究を重ねてきました。その成果が実った瞬間でもありました。

それでは子どもたちの作品をいくつか紹介してしめくりとしましょう。

また、来年度も開催しますので、多くの子どもたちの参加をお待ちしております。

(教育普及係 平岡 健)

子どもたちがピンホールカメラで撮影した作品



三芳野神社



家老の詰所



本丸御殿

展示に見る開館10年のあゆみ

皆様のお力添えで、今年当館は開館10周年を迎えました。今後も来館者の方々のお声をいただきながら活動してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

平成2年 (開館)	○開館記念特別展 「職人絵 — 姿絵にみる匠の世界」 ○企画展 「うまどしの絵馬展 — その祈りとかたち —」	○企画展 「写真展 — 明治・大正・昭和の川越 —」 ○特別展「川越の指定文化財」 ○収藏品展 (民具を中心として)
3年	○企画展「松平周防守と川越藩」 ○企画展「美の先達者たち — 鏡にみる日本の美と心 —」	○収藏品展 (民具を中心として) ○特別展「川越の生んだ鬼才 岩崎勝平」
4年	○企画展「川越城 — 失われた遺構を探る —」 ○仙波東照宮宝物特別展観 ○収藏品展 (民具を中心として)	○特別展「川越ゆかりの画人たち — 近世から 近代に活躍した11人の精華 —」 「川越ゆかりの近代日本画の巨匠 — 橋本雅邦と小茂田青樹 —」 ○企画展「川越の名刀展」
5年	◆延べ入館者50万人到達 (1月5日) ○初雁文化章受章者三人展 ○企画展「川越大火百年 — 大火の歴史と街づくり」	○収藏品展 (米作りの農具) ○特別展「三芳野神社の社宝」 ○第1回出土品展「地中からのメッセージ」
6年	○館藏品展 (美術資料) ○収藏品展 (安齊家の民具)	○「没後30年記念 川越の鬼才 — 岩崎勝平 —」 ○館藏品展 (美術資料)
7年	○企画展「川越学事始め — 郷土史の系譜を追う —」 ○館藏品展 (美術資料) ○「戦時下の川越」 ○開館5周年記念特別展 「酒井忠勝にみる近世大名の姿 — 川越藩祖酒井家ゆかりの品々 —」	○名刀展「刀と刀装具にみる日本の伝統美 — 附刀匠小沢正壽遺作展」 ◆延べ入館者100万人到達 (11月22日)
8年	○企画展「古墳時代の川越」 ○館藏品展 (美術資料)	○収藏品展 「収納のかたち — 和箆箆を中心として—」 ○館藏品展「岩崎勝平の素描」
9年	○企画展「町割から都市計画へ — 絵地図でみる川越の都市形成史 —」 ○第41回埼玉県名刀展 「山城物の系譜と江戸・大坂新刀」	○収藏品展「暮らしのあかり」 ○企画展「川越氷川祭礼の展開」
10年	○企画展「近世陶磁への招待 — 陶磁器からみた江戸時代の暮らし —」	○収藏品展 「子どもを育む — 暮らしのなかの人形 —」 ○企画展「黒船来航と川越藩」
11年	○企画展「中世びとの祈り — 仏像・金工品にみる祈りのかたち —」	○収藏品展「暮らしの器」 ○企画展「悪疫退散・五穀豊穡 — 川越の獅子舞」
12年	○企画展「河越氏と河越館」 ○収藏品展 「暮らしのよそおい — 祝い・粋・祭り —」	○開館10周年特別展「徳川三代の時代と川越」

※年度表示ではありません。

分館だより

— 本丸御殿 —

一部展示替えを 実施しました

川越城本丸御殿では、市立博物館によって管理・運営が行われるようになった平成2年3月以降、庭の整備や車椅子利用者による見学のためのリフトの設置、家老詰所につながる渡り廊下への雨よけ用板塀取り付けなどを行い、博物館の分館としての機能を見直し、改善してきました。今回の一部展示替えもその一つで、平成10年に展示替えしたものを基本として、より充実させたものです。

川越城本丸御殿の基本の展示は、嘉永元年（1848）に時の川越藩主松平齊典によって造営された貴重な建物自体の特徴を、より体験的に実感できるようにしたものです。また、内部展示についても、川越城や本丸御殿に関する内容に統一したものを

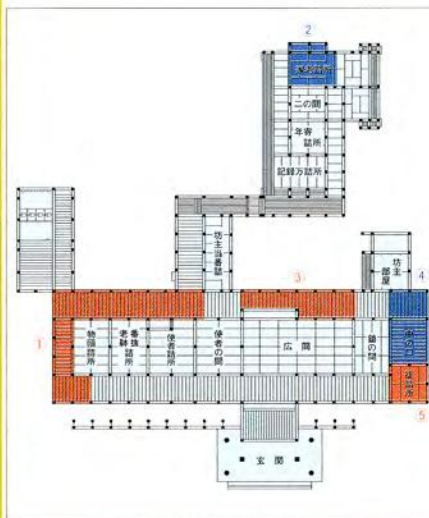
展示してあります。今回は、内部の展示替えを実施しました。

平成10年の展示替えの際に四つのコーナーに分けて設定したものに、今回新たにもう一つコーナーを設け、図の通り五つのコーナーとしました。順路に沿って①「川越城と本丸御殿」②「幕末期、川越藩家老詰所の再現」③「二の丸跡の発掘」④「城と武士にゆかりの品々」最後に新たに⑤「近・現代の本丸御殿」のコーナーを設けました。このコーナーには、本丸御殿が幕末に造営されてから明治維新を経ての本丸御殿の変遷が描かれている「近・現代の本丸御殿」のパネルを展示しています。このパネルには、明治維新後の城郭解体を経て本丸御殿が約10分の1の大きさになりながらも、郡役所や煙草工場、学校の校舎としてなど、様々な用途で使われながら150年間存続してきた姿を年表にして展示しています。そのパネルの隣に、明治の城郭解体の進んだ川越城の様子を写した写真パネルを展示して、近代の川越城や本丸御殿の様子がわかるようにしました。

また、家老詰所に至る渡り廊下の

側面に「黒船来航の図」を展示して「幕末期、川越藩家老詰所の再現」の展示コーナーの導入部分としました。その他、現在は川越市立博物館の建てられている所に川越城二の丸があったのですが、博物館建設の際の発掘調査で出土したものを「二の丸跡の発掘」コーナーとして展示しています。二の丸跡がどこにあったかわかりやすくするために、幕末の川越城の図面を現代の地図におとした「川越城図」を、その隣に展示しました。

展示替えといっても、コーナーの増設と、写真パネルの展示ですが、来館者の皆様が本丸御殿を見るにあたって、わかりやすい展示を目指して、漸次展示替えを行っていきたいと思っています。より多くの方々に見学していただけるような本丸御殿を目指して、これからも努力してまいります。



現存する本丸御殿平面図

平成11年度 資料寄贈者芳名録

平成11年度中に資料を御寄贈いただいた皆様です。心より御礼申し上げます。貴重な品々を有効に活用させていただきます。

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 土屋 豊子 | 矢口 實 | 田中 邦子 | 池田 敏博 | 渡辺仁太郎 | 秋山 知子 |
| 杉林 宏 | 矢部 忠史 | 早見 昭 | 峯岸 利夫 | 小久保庸三 | 吉田誠太郎 |
| 田中 寿男 | 沼田 嘉市 | 窪田 トリ | 竹内ケイ子 | 関口 久治 | 小島 賢一 |
| 鈴木喜三郎 | 森下 重造 | 新井三喜男 | 内田 栄一 | 岩田 スミ | 小川 悦男 |

(敬称略・順不同)

埼玉県指定文化財

銅造阿弥陀三尊懸仏

鎌倉時代

川越市古谷本郷 古尾谷八幡神社

川越市の東部、古谷・南古谷地区に広がっていた古尾谷荘は、鎌倉時代に山城国石清水八幡宮領の荘園として繁栄しました。その中心地、現在の古谷本郷には平安末期から鎌倉初期の古仏が数多く残され、在地領主古尾谷氏の篤い保護を受けた仏教文化がこの地に浸透していたことを窺わせています。

古尾谷八幡神社は、元暦元年（1184）源頼朝が石清水八幡宮を勧請したものと伝えられています。

この懸仏は、古尾谷八幡神社の御神体として伝わるもので、本社である石清水八幡宮の本地仏を踏襲し、鏡板中央に阿弥陀如来（中御前）、左脇侍に十一面観音菩薩（若宮）、右脇侍に勢至菩薩（東御前）を配していると考えられます。

鏡板、三尊とも堅実で優美な仕上がりを示しており、銘文等がないのが残念ですが、その作風から鎌倉時代後期の作と推定される、県内を代表する大型懸仏です。



常設展示室から

「ふるさとのまつり」コーナー



筒がゆの神事

13年1月25日(木)までの展示

筒がゆの神事は、毎年1月15日、川越市の北部に位置する石田の藤宮神社で行われます。1年間の作物の出来不出来と天候を占い、豊作を祈願します。かつては各地で行われていましたが、現在市内ではここだけに残っています。昭和47年2月8日、市の無形民俗文化財に指定されました。

行事は、当日の早朝午前6時ごろ、厳寒の暗闇の中で数人の氏子総代による小豆粥作りから始まります。拝殿の前に設けた竈に釜を載せ、その中に小豆1合（約0.180）、米1升（約1.80）、水1斗（約180）の割で入れて粥を作ります。

粥が出来上がると、いよいよ神事です。まず始めに、神官が簾状に編んだ18本の短い葦を2本のカユカキボウで挟み、釜の中の粥に2回浸します。この18本の葦には意味があり、「大麦、小麦、大豆、小豆、大角豆、早せ、中て、晩稲、あわ、ひい（ひえ）、もめん、いも、な（菜）、大こん、そば」の15の作物と「雨、風、日」の三つの天候を表しています。その後、葦は釜から取り出されると一旦神前に供えられ、神官の手で1本1本丁寧に割り裂かれていきます。そして、中に入っている米粒の数によって占いがなされ、その場で結果が明らかにされます。

小豆粥を食べると虫歯にならないといわれ、この神事後、場に居合わせた人々皆に振舞われます。

（注）カユカキボウ…ニワトコ等の木を用いて、手で持つ部分以外の樹皮を剥ぎ、先端を十文字割にして団子をつけたもの。

Information

平成12年12月～平成13年3月の予定です。

講) 座) ・ 教) 室) e) t) c)

行 事	内 容	日 程	申し込み
子ども博物館教室 (後期)	市内の小学校中学年から中学校 2年生まで 裂き織り、正月飾り作り、草木染め	12月17日 (日) 1月27日 (土) 28日 (日)	受け付け中
歴史講演会	「家電の歴史」(仮題)	2月3日 (土)	1月8日 (月) 午前9時～
歴史講演会	「ちゃぶ台を囲んで —食卓から見た暮らしの変化—」	2月4日 (日)	1月8日 (月) 午前9時～
機織り基礎講座 [講 演]	原始・古代と近代の織りもの 魅力について	2月25日 (日)	2月5日 (月) 午前9時～
機織り基礎講座 [体 験]	アンギン・弥生機・地機・高機 を実際に扱います	3月3日 (土) 4日 (日) (どちらか1日)	2月5日 (月) 午前9時～
野外博物館教室 川越の石仏を訪ねて	川越市内を歩きます	3月17日 (土)	3月7日 (水) 午前9時～

*お申し込みは、電話・ファクスで。変更の可能性もありますので、詳細については、「広報 川越」を御覧ください。
お問い合わせは、博物館まで。

土 曜 体験教室

毎月第2土曜日、博物館で遊んでみませんか？

平成12年 12/ 9 火おこしに挑戦しよう

平成13年 1/13 博物館マップラリー

2/10 はかってみよう

3/10 手作りおもちゃ



- 時間 午前10時～11時30分
午後1時30分～3時30分
- 場所 川越市立博物館体験学習室ほか

- 申し込みは不要です。当日、直接博物館へお越しください。
児童・生徒は、参加のための入館は無料です。

21世紀記念事業 川越の移り変わり100年 ～むかしの勉強・むかしの遊び～

平成13年1月23日（火）～3月4日（日）



明治28年、川越・国分寺間の川越鉄道が開通、明治37年には川越に電灯がとりました。…川越の100年前は、まさに近代の幕開けでした。そして昭和20年代の戦後の動乱期、昭和30年代の家庭電化の時代を経て、私たちの生活は大きく変わってきました。今回の展示では、川越の人々の暮らしを中心に上げながら、日本全体の動きとあわせて川越100年の移り変わりをたどります。

また、この展示期間中、歴史講演会を開催いたします。

◆歴史講演会

2月3日（土）「家電の歴史」（仮題）

講師：三菱電機株式会社 家電事業部担当部長 加野友二氏

2月4日（日）「ちゃぶ台を囲んでー食卓から見た暮らしの変化ー」

講師：昭和の暮らし博物館 館長 小泉和子氏

◇時間 午後1時30分～3時30分

◇会場 川越市立博物館視聴覚ホール（定員：各100名）

※講演会申し込み…平成13年1月8日（月）午前9時～ 電話・ファクスで博物館まで

第17回企画展 「歴史探検 縄文時代をゆく」 平成13年3月24日～5月6日

近年、縄文時代が「人と自然が共存した時代」として注目されています。この企画展は、考古学の最新の研究成果に基づき、こうした縄文時代の暮らしを再現しようとするものです。

----- 利用の御案内 -----

◆開館時間 午前9時から午後5時まで（ただし入館は4時30分まで）

◆休館日 月曜日（休日は除く）、毎月第4金曜日（休日は除く）、
休日の翌日（土・日曜日は除く）、年末年始（12/28～1/4）、
燻蒸期間（7月上旬頃予定）、特別整理期間（12月中旬予定）

◆入館料

区分	博物館	川越城 本丸御殿	川越市 蔵造り資料館	3館共通券 〈博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館〉
大人	200円 (160円)	100円 (80円)	100円 (80円)	300円
学生・生徒	100円 (80円)	50円 (40円)	50円 (40円)	150円
児童	50円 (40円)	30円 (20円)	30円 (20円)	80円

●（ ）内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合。

●開館時間・休館日は、3館とも同様。（燻蒸期間・特別整理期間は博物館のみ休館）

交通案内

東武東上線・JR川越線 川越駅より
または西武新宿線 本川越駅より
東武バス 「札の辻」下車徒歩8分



発行日 平成12年11月30日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1 ☎ 0492-22-5399
FAX 0492-22-5396